

COVID-19感染拡大による 祭りへの関心の変化

竹内照公

【はじめに】

2020年初頭からの新型コロナウイルス感染の拡大により、他の大規模な行事とともに次々と祭りが中止になって、2021年にも及んだ。この中断によって祭りの伝統が断絶してしまうことが危惧されている⁽¹⁻⁴⁾。

祭りには、開催を通じた伝承がつきもので、開催できないことによつて失われる伝統がある一方で、関心の維持によって、継承を期待できるのではないかと考えた。そこで、断絶への危惧には、開催ができないこととともに、関心の低下も影響すると想定し、関心の変化を、インターネットの検索頻度の推移を調べることによって、検証することとした。

インターネットについては、コンテンツの解析、アクセスの解析の他、検索の解析が行われている。このうち、インターネットの検索頻度は、主にビジネスの世界でマーケティングに活用されてされてきた。検索頻度が注目の指標とみなされ、どのように注目を集めるべきか、どのようなキーワードに注目が集まっているかが、商品開発や広告企画に活かされてきた。

検索頻度の解析はビジネスに限らず応用されており、これまでに、インフルエンザ様症状とインフルエンザウイルス感染症の流行との関係^(5,6)や希少動物の生息確認⁽⁷⁾などの試みがなされている。インターネットの検索頻度には、さまざまな現象が背景に埋もれている。

これまでも、祭りは、戦争や災害、疫病、人口構成の変化などによ

COVID-19感染拡大による祭りへの関心の変化

って断絶してきた。そのまま消滅してしまったものもあるが、再開されたものや変容したものもあった^(8,9)。新型コロナウイルス感染は人の密集によって拡大するとされ、公衆衛生上の理由から開催が中止されてきた。人が集まるという祭りのあり方に、コロナ禍は影響を与えるものと考えられ、その影響は、戦争や災害とは異なるものとなることが考えられる。

インターネットの検索につながる関心が、祭りの継承につながる関心と一致しているとはいえないものの、祭りへの関心は、中止への関心に変化し、さらに断絶への危惧へと変化し、再開への兆しへと変化していく可能性がある。その変化をインターネットの検索頻度から読み取るところをこころみた。

【方法】

Googleトレンド⁽¹⁰⁾を用い、検索語のトレンドを調査した。異なる検索期間や複数の検索語の比較を行った。googleトレンドは、2004年からの検索語の利用推移が「人気度の動向」として表示される。このサービスでは、全検索の中で、指定した検索語が占める割合を算出し、指定した期間中の最大の検索頻度の割合を100として相対的な頻度を取得する。複数の語の比較が可能であり、指定された語のうちの最大頻度を100として相対的な頻度が表示される。2008年にサービスが開始され、2011年に地域区分の変更が行われ、2016年にデータ収集システム変更になっているという説明がある。

この研究では、2007年から2021年11月までの期間（過去15年）と、2017年から2021年11月までの期間（過去5年）についてのトレンドを調べた。過去15年については月単位、過去5年については週単位の集計がなされている。また、検索語について表示される「関連キーワード」を参照し、どのような検索がされているかを検討した。

【結果】

「祭り」についての検索トレンドについて調べることとし、表記による差異を調べた。ついで、特定の祭りについてのトレンドを調べた。東京で行われる規模が大きな祭りとして、三社祭と江戸三大祭りを取り上げた⁽¹¹⁻¹⁴⁾。江戸三大祭りは異説があるが、天下祭と称される神田祭り、山王祭り、深川八幡祭りについて調べるとともに、関連する語として神輿、山車について調べた。年中行事や通過儀礼について調べて、比較した。新型コロナウイルス感染にともなう祭りの中止に関連した用語の検索との関連について調べた。

「祭り」の類義語

「祭」の類義語として、「祭り」「祭」「まつり」「祭礼」「祭祀」「祭事」についての検索トレンドを調べた。「祭り」「祭」「まつり」に比べて、「祭礼」「祭祀」「祭事」は低頻度であり、結果の変動が激しいことから、「祭り」「祭」「まつり」について検討した（図1-1）。

「祭り」「祭」「まつり」には、1年単位の周期的な変化があったが、2020年、2021年には消失している。年単位の周期変動では、「祭り」は7・8月に頂点があり、「祭」は10月に頂点があり、周期内の頂点の位置が異なっていた。「まつり」は、「祭り」「祭」と異なり、頂点と谷の差が小さく、変動が小さかった。いずれも例年1月が谷となっている。

関連キーワードの「人気」をみると「祭り」は、「七夕 祭り」「東京祭り」「花火 大会」「お祭り」「札幌 祭り」が検索されている。「祭」は、「文化祭」「感謝祭」「学園祭」「音楽祭」という検索されている。「まつり」は、「札幌 まつり」「札幌 雪まつり」「さくら まつり」「桐谷まつり」「ヒナ まつり」が検索されている。なお、「桐谷まつり」は、人名である。

検索頻度変動および関連キーワードが異なっていることから、「祭り」「祭」「まつり」は、異なる意図で検索されていると考えられる。

新型コロナウイルス感染とともに「祭り」「祭」「まつり」の検索頻度

COVID-19感染拡大による祭りへの関心の変化

が減少している。2020年12月に「祭」のピークが見られるが、2019年以前の頻度とほぼ同様であった。12月には、新型コロナウイルス感染に影響をうけない検索があると考えられる。2021年7月に「祭り」「祭」のピークがあるがいずれも2019年以前よりも低頻度である。「まつり」は、低頻度で変動がほぼ消失している。

新型コロナウイルス感染による検索頻度の減少により、例年の谷の水準まで低下している。この谷がベースラインを形成し、例年の頻度上昇は、「祭」「祭り」「まつり」の開催にともなう注目がきっかけとなって検索が増えているものと考えられた。新型コロナウイルス感染拡大により、祭りが開催されないことによって、検索頻度が低下したと思われる。

三社祭りと江戸三大祭り

「祭り」「祭」「まつり」は異なる語として認識され、トレンドも異なっていることを踏まえ、それぞれの表現に対応した名称でのトレンドを調査した。「三社」、「神田」、「山王」、「深川（深川八幡）」に「祭」「祭り」「まつり」をそれぞれ加えた検索ワードの検索頻度を見た。「まつり」を用いた検索ワードの頻度は低かったため、「祭」「祭り」を対象にした。また、「深川」については、「深川八幡」の呼称があり、あわせて検討した（図1-2）。

これらのうち、三社は毎年、神田と山王は隔年、深川は3年ごとに大祭や例大祭、本祭と称されて大規模開催が行われる。検索の頻度の推移をみると、大規模開催にあわせた上昇がみられ、三社は毎年、神田と山王は隔年で交互にピークがみられる。深川は大きなピークが3年ごとからずれることがあるが、大祭のスケジュールが変更されたことによると思われる。

2011年は、いずれもピークが低くなっている。これは、東日本大震災にともなって行事が中止されたことによるものと考えられる。新型コロナウイルス感染とともにいずれも検索が低下し、ピークも消失している。新型コロナウイルス感染の影響は、東日本大震災の影響よりも、大きな

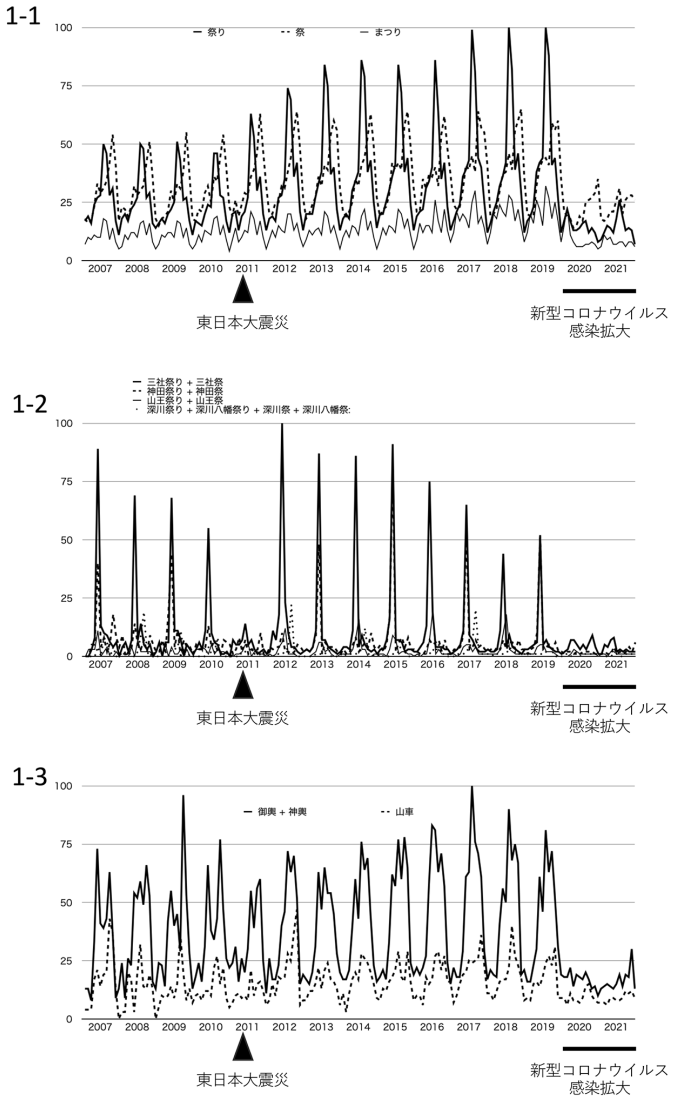


図1 祭りに関連する検索トレンド
「祭り」「祭」「まつり」の15年間の検索トレンド (1-1)「三社祭り」および三大祭りの15年間の検索トレンド (1-2)「神輿」および「山車」の15年間の検索トレンド (1-3)

COVID-19感染拡大による祭りへの関心の変化

変化になっている。

祭りに用いられる祭具のうち神輿や山車についてのトレンドを調べた。今日、三社祭りと江戸三大祭りは神輿祭りと知られている。1年単位の周期的な変化がみられる。東日本大震災に関連した検索減少は見られないが、新型コロナウイルス感染の影響による検索減少が見られる（図1-3）。

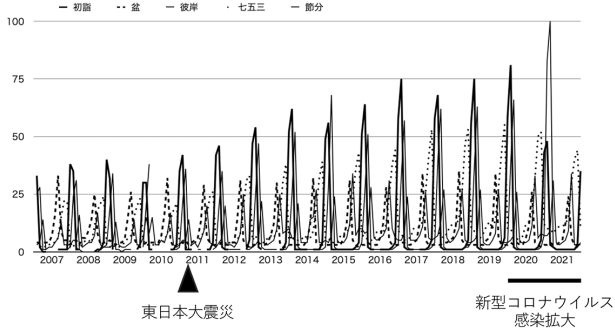
年中行事および通過儀礼

代表的な年中行事として初詣、節分、彼岸、盆、七五三について調べたところ、いずれも1年単位の周期的な変化がみられた。東日本大震災および新型コロナウイルス感染の影響による検索減少はみられなかった。新型コロナウイルス感染拡大の影響のためか、2021年の節分のピークが上昇していた（図2-1）。

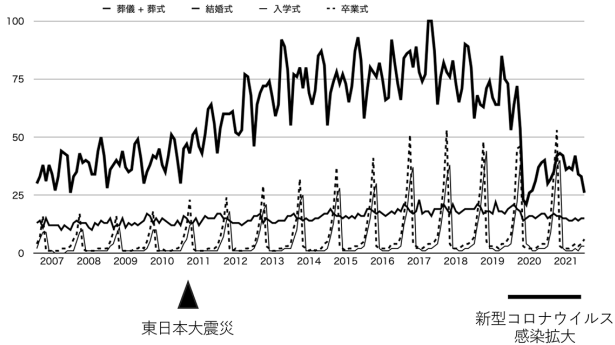
代表的な通過儀礼として、入学式、卒業式、結婚式、葬儀について調べた。入学式、卒業式については、1年単位の周期的な変化がみられるが、新型コロナウイルス感染の影響による検索の減少は見られなかった。結婚式については、7月と12月が底となり9月がピークとなる2峰のトレンドで年単位の周期的に変化していたが、新型コロナウイルス感染拡大をうけて2020年4月に大きく減少した。その後検索は回復傾向にある。葬儀および葬式をあわせた検索トレンドは、明確な年単位の変化は見られないが、新型コロナウイルス感染拡大をうけて減少がみられた（図2-2）。

葬儀に関連し、さらに詳しく調べた。葬儀および葬式について調べたところ、2020年4月に減少し、以前の水準には回復していない（図2-3）。なお、葬儀および葬式には、大きなピークがみられる週がある。これは、著名人の訃報によるものと思われる。2017年6月にみられるピークには小林麻央、2019年7月にみられるピークにはジャニー喜多川の訃報があった。

2-1



2-2



2-3

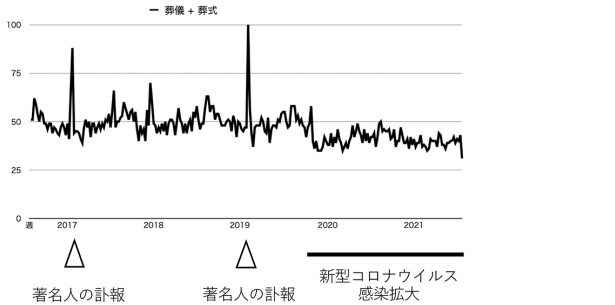


図2 年中行事および通過儀礼の検索トレンド
 年中行事の15年間の検索トレンド (2-1) 通過儀礼の15年間の検索トレンド (2-2) 「葬儀・葬式」の5年間の検索トレンド

新型コロナウイルス感染拡大

コロナウイルスに関する検索は、2020年初頭まで皆無であった。2020年4月にピークがあり、その後、コロナウイルス感染の第1波から第5波に一致するように検索の増加がみられる。「感染」についても同様のトレンドであった。検索のトレンドと各波の感染者数との関係は見られず、ほぼ検索トレンドのピークは一定である。比較のためにインフルエンザについてみてみると、コロナウイルスに比べて検索頻度は低い（図3-1）。

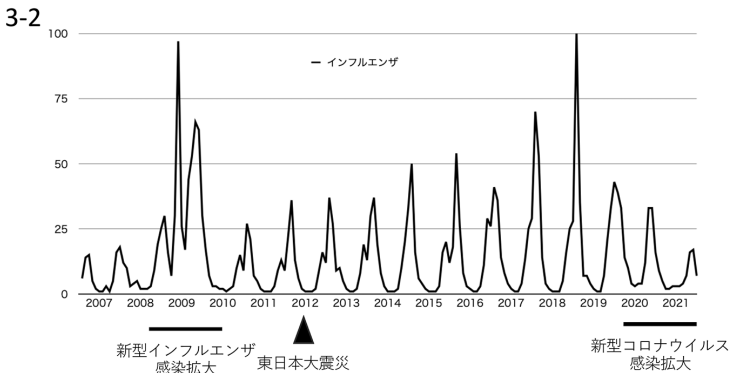
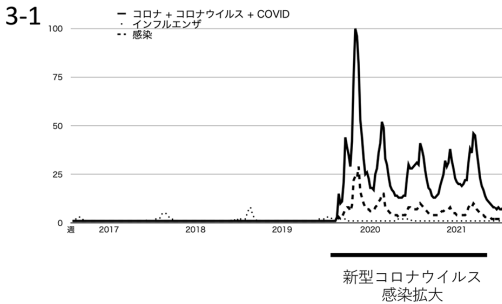


図3 ウイルス感染症の検索トレンド
ウイルス感染症の5年間の検索トレンド（3-1）「インフルエンザ」の15年間の検索トレンド（3-2）

インフルエンザだけを調べてみると、1月をピークとする1年単位の周期的な変化があり、2010年以降ピークが高くなる傾向にあったが、2020年には、ピークが下がっていた。2009年には5月と11月をピークとするトレンドが見られているが、これは新型インフルエンザの影響があった時期である（図3-2）。

新型コロナウイルス感染拡大の影響

新型コロナウイルスの感染が飛沫感染であることから、人の接触を減らすことが感染対策になるとされ、密接、密集、密閉をあらわす「三密」という用語で、回避すべきものとされた。「三密」のコロナ対策に関連するとみられる検索は、2020年4月に急に登場してピークがあり、その後11月に小さなピークがあった。11月のピークは、流行語大賞に関連している。その後、検索のトレンドは低下している。2020年4月以前にもわずかながら検索はみられるが、仏教語として「三密」であろう（図4-1）。2020年4月に急に登場する用語としてロックダウンがある。ロックダウンは、第5波に重なって検索が増加している（図4-2）。

新型コロナウイルス対策において、人々には、マスク着用や手指の消毒の徹底が求められていた。マスクに比べ、消毒は検索頻度が低いものの2020年4月にピークがみられた。また、医療としては、検査やワクチン、薬が必要となるが、ワクチンについては、2021年8月をピークとしたトレンドがみられた。検査については大きな変化ではないが、2021年8月にピークがみられた。薬については特筆すべき変化はみられなかった（図4-3）。

感染対策として祭りに影響する語として、自粛 中止 延期 再開について調べたところ、新型コロナウイルス感染症拡大の以前では、東日本大震災の時期にこれらの語の検索が増加していた（図5-1）。

これらの語のうち、祭りとともに検索されているのは中止で、自粛、延期 および再開についてはトレンドとして表示ができないレベルであった。祭りの中止については、2020年以前は災害に関連している（図

COVID-19感染拡大による祭りへの関心の変化

5-2)。自粛については、「外出 自粛」として検索されていた。

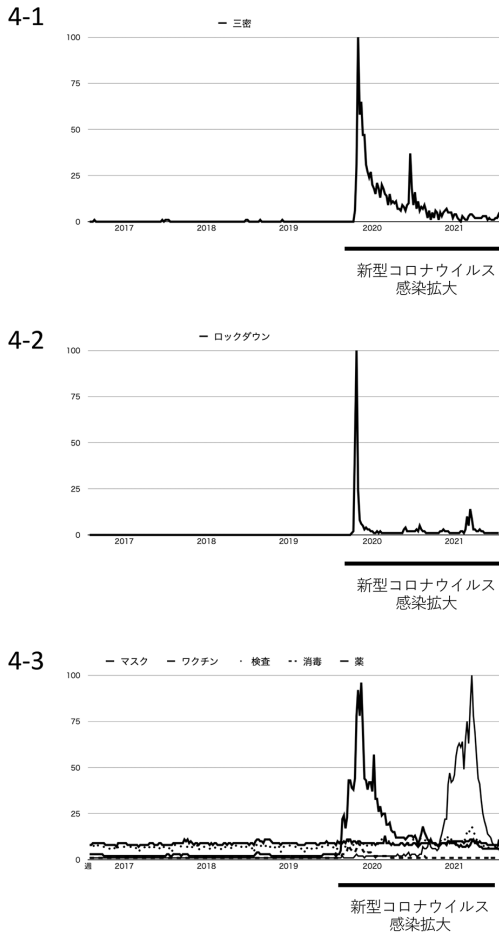
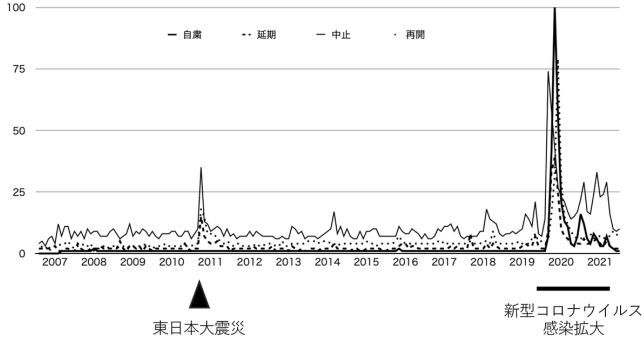


図4 新型コロナウイルス感染症対策に関連する検索トレンド
「三密」の5年間の検索トレンド (4-1) ロックダウンの5年間の検索トレンド (4-2) 「マスク」「ワクチン」などの感染症対策の5年間の検索トレンド (4-3)

5-1



5-2

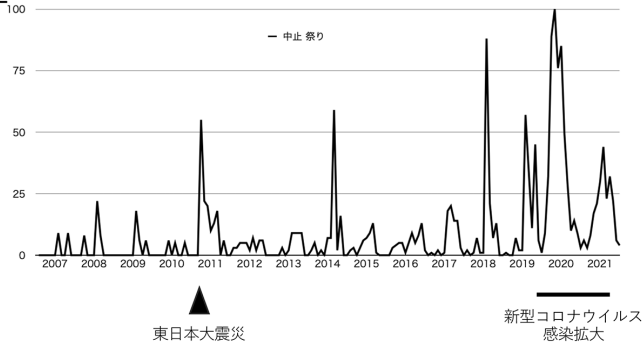


図5 行事の変更に関連する検索トレンド
「自粛」「延期」「中止」「再開」の15年間の検索トレンド (5-1) 「中止 祭り」の15年間の同時検索トレンド

【考察】

Googleトレンドを用いて、新型コロナウイルス感染拡大による祭りへの関心の変化を調べた。検索頻度からみた祭りへの関心は、開催の中止によって減少していて、他の中止された行事等に比べて関心の回復が遅れている。密を回避することと関連し、御輿や山車といったものへの関心の低下をともなっていた。密を避けられないために中止を余儀なくされている祭りへの関心は低下が持続しており、危惧されている伝統の断絶の可能性は、他の行事と比べて高いことを裏付けていると考えられる。

この研究でGoogleトレンドを用いる上で、日本語では送り仮名などの表現があるため、注意が必要であった。表記の違いや類義語の用例について、検索トレンドからどのように使われるかをみるのが可能である。「祭り」という表記が、伝統行事でイメージされる祭りとして検索されるが、「祭」とあわせて調べる必要があるとともに、表現による差異に配慮する必要があった。

祭りへの関心として捉えると、新型コロナウイルス感染拡大により祭りが中止された時期には、検索頻度は低下するとともに、年ごとの周期的なトレンドが消失していた。検索頻度が高まるピークが形成されるトレンドには、開催が関連するものと考えられる。同様に、特定の祭りについての検索を行うと、本祭りなどと称されて大規模に開催される年の検索が増えていた。東日本大震災および新型コロナウイルス感染拡大の影響で、開催されないことによって検索増加が発生しなくなっていた。開催と関連すると考えられる。

新型コロナウイルス感染拡大の影響の特徴として、神輿や山車といった参加者の密集のきっかけになるものについての検索は、東日本大震災後には減少は観察されなかったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響においては減少していた。祭りが中止された経緯によってトレンドが異なると考えられ、新型コロナウイルス感染拡大で避けなければならない密と関係して神輿や山車の検索が減少したと考えられる。

祭りに比べ、年中行事の多くや通過儀礼についての影響は小さかった。結婚式および葬儀は、コロナウイルス感染拡大の初期で減少したが、回復傾向にある。結婚式や葬儀については開催の工夫の余地があるとともに、行事の規模の調整が容易で、密を避けることが可能である。これに対し、密を避けられない祭りには対応の余地が限られていた可能性がある。

この研究で調べたインターネット検索は、行為自体が新しいため、その意味づけには議論があるものの^(15, 16)、ネット上に存在するテキストコンテンツの解析やアクセス解析とは別の解析である。コロナウイルス感染拡大やその影響に関する検索数は、急増してピークを迎えるトレンドを示していた。新しい言葉への関心から初期のピークが形成されるが、定着することで検索が減少しているのではないかと考えられた。定着後も検索行動を変化させるような出来事があると検索が増加するものと思われる^(17, 18)。

検索行為と感染症との関係についての取り組みとしては、検索の推移を用いてインフルエンザ流行の予測を目指したGoogle Flu Trendsが2008年から2015年に行われている。インフルエンザ様症状についての検索頻度をみることにより地域のインフルエンザ流行を予測するという試みで、当初は、10日程度早く衛生行政当局よりも流行を早く把握できるとされたが、後にその特異性が低下した⁽²⁰⁾。技術の発展や普及により人々の検索行動が変化したことなど、様々な要因があるとされている。検索頻度の調査は、様々な要素に左右され、その制御が困難であるという限界を抱えているものの、将来性がある手法であると思われる⁽²¹⁾。

新型コロナウイルス感染拡大にともなってコンサートやイベントがオンラインに移行する傾向がある^(22, 23)が、祭りの全てが移行できるとは言いがたい。特定の祭りとして調べた三社祭りや江戸三代祭りは、明治の近代化の中で山車祭りから神輿祭りへと変容した祭りであるが、第二次世界大戦による中断後の再開にあたっては、神輿祭りとして復活を遂げることができた。東日本大震災後には神輿の祭りが復興の象徴とされた⁽²⁴⁾。

COVID-19感染拡大による祭りへの関心の変化

しかし、今後の新型コロナウイルス感染への対策次第では、神輿祭りとしての継続は難しくなる可能性がある。祭りへの関心は、中止への関心に変化し、さらに断絶への危惧へと変化しているが、再開への兆しはみられていない。断絶が現実になるのかどうかを含め、今後を見守っていく必要があるが、その変化とネット検索との関係も観察していきたい。

【まとめ】

新型コロナウイルス感染拡大にともなって中止された祭りに関連した語へのネット検索は、ほかの行事などに比べ、回復がにぶい。三密を避けるという言葉に象徴される感染対策に関連しており、祭りの伝承への危惧を裏付けるものである。

文献

- (1) コロナ禍と祭礼 伝統の継承へ知恵を絞りたい:社説:読売新聞オンライン. <https://www.yomiuri.co.jp/editorial/20200627-OYT1T50321/>
- (2) コロナで失われる可能性が高い日本文化1位は“祭り”2人に1人がコロナ収束後も祭が開催されないと回答「祭に対する意識調査」 | 一般社団法人マツリズムのプレスリリース. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000015.000023777.html>
- (3) 久保田裕道. コロナ禍における無形の民俗文化財の現状と課題. 無形文化遺産研究報告. 2021 Mar 31(15):13-24.
- (4) 加賀淳一. 世界農業遺産「能登の里山里海」の祭りが直面するコロナ禍: 伝統の断絶を乗り越える取り組み (特集 ポストコロナ社会の都市農村交流). 農村計画学会誌. 2021;40(1):22-5.
- (5) 荒牧英治, 増川佐知子, 森田瑞樹. Twitter catches the flu: 事実性判定を用いたインフルエンザ流行予測. 研究報告自然言語処理 (NL). 2011;2011(1):1-8.
- (6) 奥村貴史, 近藤賢郎. 診断支援プラットフォームと感染症サーベイランス. SIG-SAI. 2014;21(1):1-5.
- (7) 杉山昌典, 門脇正史. インターネットを活用したヤマネ *Glirulus japonicus* の全国分布調査. 哺乳類科学. 2014;54(2):269-77.
- (8) 黒崎浩行. 自然災害からの復興における宗教文化の位相: 生業の持続・変化の観点から. 宗教と社会貢献. 2017;7(1):1-7.
- (9) 弓山達也. スペイン風邪禍でなぜ宗教行事は催行されたのか. 宗教研究. 2021;95

- (2):171-96.
- (10) <https://trends.google.co.jp/>
- (11) 天下祭 / 東京市編纂 (東京市史外篇 / 東京市編纂 第4) . 東京市役所. 1939
- (12) 豊田和平. 江戸の天下祭り. 比較都市史研究. 2001;20(2):11-23.
- (13) 市と祭礼研究会編『天下祭読本-幕末の神田明神祭礼を読み解く (神田明神選書)』雄山閣, 2007
- (14) 松木伸也『富岡八幡宮の御祭神と深川八幡祭り』松木伸也, 2012
- (15) 桑折章吾, 加藤優, 高間康史. 検索エンジンを用いた情報検索におけるユーザ行動の分析. SIG-AM. 2013;4(02):9-14.
- (16) 吉岡敦子. インターネット情報検索環境におけるブラウジングにかかわる認知的要因. 東洋大学人間科学総合研究所紀要. 2016 Mar(18):193-210.
- (17) 依田祐一, 水越康介, 本條晴一郎. AI を活用したユーザーニーズの探索プロセスにおける!結果”と!理由”に係る一考察~ Amazon. com と Google をもとに~. 立命館経営学. 2016;55(3):105-27.
- (18) 高木義和. コンテンツ利活用力向上をめざした情報検索~ スマートフォンによるインターネット常時接続が大学生の情報収集行動に与えた影響~. 新潟国際情報大学経営情報学部紀要. 2019;2:51-75.
- (20) KANDULA, Sasikiran; SHAMAN, Jeffrey. Reappraising the utility of Google flu trends. PLoS computational biology, 2019, 15.8: e1007258.
- (21) RAUBENHEIMER, Jacques Eugene. Google Trends Extraction Tool for Google Trends Extended for Health data. Software Impacts, 2021, 8: 100060
- (22) 横川知司. 新型コロナウイルス流行に伴う伝統行事の変容—広島県東広島市西条町のトンドを事例に一. In 日本地理学会発表要旨集 2021 年度日本地理学会秋季学術大会. 2021 (p. 78) . 公益社団法人 日本地理学会.
- (23) 石原肇. < 研究ノート > コロナ禍におけるオンライン配信を用いた地域活性化音楽イベント開催の意義—大阪市城東区の「がもよんフェス 2020-2021」を題材として一. 近畿大学総合社会学部紀要. 2021 Sep 30;10(1):49-62.
- (24) 谷端 郷, 板谷直子 (牛谷直子) , 中谷友樹. 被災後の町の復興を支える神輿渡御 : 宮城県南三陸町保呂羽神社の春祭り . 歴史都市防災論文集 . 2018;12:193-200.